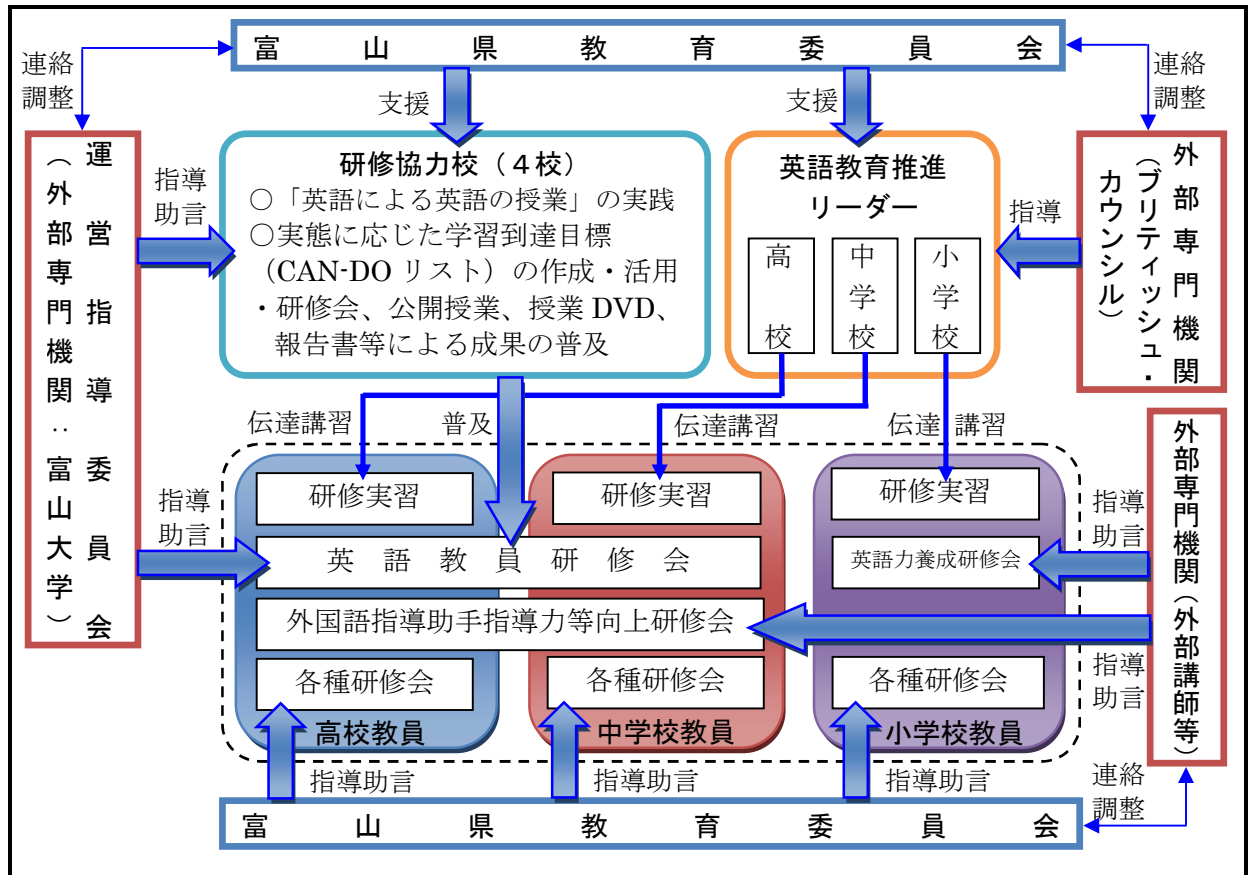


富山県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理 (H28、H29の数値は目標値)

① 求められる英語力を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合

【高校】H28：80%、H29：80%

【中学校】H28：53%、H29：55%

中学校、高校とも比較的高い割合ではあるが、まだ目標値には達していない。今後とも、あらゆる機会を捉え、英語教員を対象とする外部検定試験の特別受験制度について紹介するなどして、英語教員に外部検定試験の受験を促す。また、研修会等では、教員ができるだけ英語を使用する機会を増やすなど実施方法を工夫し、英語力向上への意識を高めさせるとともに、引き続き自己研鑽を推奨していく。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

【高校】H28：45%、H29：50%

【中学校】H28：44%、H29：50%

これまで、学校訪問や研修会等において、生徒の4技能をバランスよく伸ばすことができるよう、指導と評価について改善を促すとともに、生徒の能力を適切に測るために、英検等の外部検定試験を積極的に活用することを各校に推奨した結果、中学校、高校とも平成27年度は前年度よりも微増となった。しかし、まだ目標値には達していないので、今後は教員ができるだけ英語で授業を行い、より多くの言語活動を授業に取り入れるなど授業改善を行うことによって、生徒に実践的な英語力を身につけさせるとともに、生徒の英語力を適切に評価する力を養うために、パフォーマンステストの実施方法やその評価に関する教員研修を充実させていく。

③ 「CAN-DO リスト」の形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

【高校】(設定) H28：100%、H29：100% (公表) H28：100%、H29：100%

(達成状況の把握) H28：100%、H29：100%

【中学校】(設定) H28：100%、H29：100% (公表) H28：100%、H29：100%

(達成状況の把握) H28 : 100%、H29 : 100%

あらゆる機会を捉えて、CAN-DO リストの作成を促してきた。平成 27 年度は、全ての中学校に CAN-DO リストの例を配布し、作成を促した。また、英語教員研修会（高校）において、CAN-DO リスト作成に関するワークショップを実施するとともに、27 年度末には全ての県立高校に CAN-DO リストを作成・提出してもらった。

今後は、各学校で CAN-DO 形式による学習到達目標を設定することの意義を改めて周知し、29 年度末までに全ての学校において CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定・公表・達成状況の把握が行われることを目指し、計画的な取組を進めていく。まず、28 年度は、英語教員研修等において自校の CAN-DO リストを持ち寄り、グループ協議を行う予定である。そして、生徒の実態に応じて適宜修正を加え、PDCA サイクルで改善を図っていくよう促していく。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【高 校】 H28 : 70%、H29 : 70%

【中学校】 H28 : 70%、H29 : 70%

中学校、高校とも、授業における生徒の言語活動は比較的良好に行われている。特に平成 27 年度は、中学校において割合が大きく上昇し、目標を達成した。一方高校においては、コミュニケーション英語に比べ、英語表現における言語活動時間の割合が低い。これは英語表現の時間において、文法事項等の一方的な説明及び問題演習に時間を多く費やしている教員が多いからではないかと思われる。

今後は、「文法はコミュニケーションを支えるものである」ことを改めて意識させ、英語科全体として授業改善を図っていくよう働きかける。

また、各種研修会等において、言語活動の取組例について情報交換することにより、各校における言語活動をいっそう充実させる。

⑤ 「話すこと」及び「書くこと」における「外国語表現の能力」を評価するためのスピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

パフォーマンステストを実施している学校は増えており、おおむね目標を達成したと思われるが、引き続きパフォーマンステストに対する英語教員の意識を高めていく必要がある。

「話すこと」の評価については、期末考査後の、いわゆる特別授業の期間中にインタビューテストやスピーキングテストの形で実施している学校が多い。

「書くこと」の評価については、定期考査で行っている学校もあれば、授業中のタスクや宿題として自由エッセイなどを課している学校もある。ただし、評価は採点者に任されていることが多く、いくぶん客観性に欠ける嫌いがある。

よって、平成 28 年度は、パフォーマンステストの評価規準等に関する研修会を実施し、適切な評価のあり方等について協議する予定である。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

【高 校】 H28 : 75%、H29 : 75%

【中学校】 H28 : 70%、H29 : 70%

学校訪問や研修会の機会を通じて、英語で授業を行う必要性とその具体的な方法等について周知を図っているが、まだ目標には届いていない。中学校、高校とも、学年が上がるにつれて、教員が英語を使用する割合が下がる傾向が見られる。

今後は、教員が英語を使って生徒の言語活動を積極的に行わせているよいモデルを示すなどして授業改善を促し、全ての教員が授業をおおむね英語で行うことを目指す。

⑦ 域内の全小学校における、相応の英語力を有する教員の全教員に占める割合

【小学校】 H29 : 1.3%

年度当初に県内全公立小学校に外部検定試験の特別受験制度についての案内を配布するとともに、研修会等において紹介し、小学校教員に対して外部検定試験の受験を推奨している。今後は、英語免許保有者を中心に英検・TOEIC 等の資格取得を促す。

⑧ 域内の全ての学校における、研修実施回数、研修受講者の人数及び全英語担当教員（小学校において全教員）に占める割合

【高 校】 (実施回数) H28 : 12 回、H29 : 11 回 (受講者数) H28 : 420 名、H29 : 380 名

【中学校】 (実施回数) H28 : 8 回、H29 : 7 回 (受講者数) H28 : 560 名、H29 : 520 名

【小学校】（実施回数）H28： 5回、H29： 5回 （受講者数）H28：390名、H29：390名

平成27年度は、全ての校種において、ほぼ予定どおり研修会を実施することができ、実施回数、受講者数ともほぼ目標を達成した。なお、27年度当初の計画では、小学校教員対象の研修会を「英語教員研修会」に位置づける予定であったが、会場等の関係から、小学校教員対象の「英語力養成研修会」と、中学校・高校教員対象の「英語教員研修会」に分けて実施した。28年度もほぼ同様の形で実施する予定である。

今後とも、研修が教員の過度な負担にならないよう、他の研修と兼ねて実施するなどして研修の機会を確保し、できるだけ多くの教員が研修に参加できるようにするとともに、充実した研修となるよう内容を工夫する。

（2）研修の体系と内容の具体

■研修協力校による研修（H27～29）

目的 学習指導要領の趣旨に即した、研修協力校独自の学習到達目標と英語指導法に関する研究

研修体制

① 研修協力校4校（高校）の設置

- ・新川、富山、高岡、砺波の4地区それぞれに1校ずつ研修協力校（探究科学科を有する1校、普通科と専門学科の併設校2校、普通科単独校1校）を置く。
- ・全ての県立高等学校から1名以上の英語教員が参加する英語教員研修会において、研修協力校が実践研究の経過・成果を発表する。
- ・各研修協力校で公開授業・研究協議会を実施する。実施に当たっては、各地区の高校のみならず、小中学校の教員にも広く参加を呼びかける。また、研究協議会では、参観した授業についてグループ協議を行い、その後全体で意見を共有するなど、授業者、参観者の両者にとって有意義な協議会となるよう工夫する。
- ・年度末に研修報告書を作成し、県内の全ての県立高校の英語教員に配布する。
- ・研修協力校の授業をDVDに記録し、全ての県立高校に配布する。

② 運営指導委員会（外部専門機関：富山大学）による研修

- ・富山大学の英語教育を専門とする教授を運営指導委員に加え、運営指導委員と指導の方向性について協議しながら、継続的に研修協力校の指導にあたる。
- ・各研修協力校で運営指導委員会を実施し、授業参観後、研修協力校の実態に応じた英語の指導法について協議し、運営指導委員が指導助言を行う。
- ・年度末には4校合同の運営指導委員会を実施し、研修協力校間において情報共有を行う。
- ・県教育委員会主催の英語教員研修会での研修協力校の研究発表に対し、協議及び運営指導委員による指導助言を行う。

■英語教員研修会の実施（H24～28）

目的 高度な英語力をもち、世界で活躍するグローバル人材を育成するため、英語教員の指導力の向上を図る。

実施形態 夏期休業期間中に3日間実施する。

対象者 5年間で中学・高校全ての英語教員が受講する。（毎年約100名）

研修内容

- ・CAN-DOリストの活用や具体的な授業改善について研修する。
 - ・県内外の講師による言語活動に関するワークショップを実施する。
 - ・前年度の中央研修参加者による伝達講習や、海外派遣研修参加者による発表会を行う。
 - ・全ての参加者が現行学習指導要領に対応する「授業実践報告書」等を持参し、4、5人でグループ協議・情報交換を行う。
 - ・中高の英語教員合同の情報交換・協議（定期テスト、年間指導計画等）を行う。
- その他**
- ・授業実践報告書は、研修参加者数を印刷、持参してもらい、全ての参加者に配布し、各校で資料を活用できるようにする。
 - ・「教員に求められる英語力」（英検準1級程度以上）を有していない教員には、外部検定試験の受験を促す。
 - ・研修後アンケート調査を行い、次年度の研修会に生かす。

※なお、平成29年度からは、この研修会の形態・内容を見直し、中央研修参加者による伝達講習を中心に実施する予定である。

■英語力養成研修会の実施（H27～）

目的	小学校教員の英語力、英語指導力の向上を図る。
実施形態	夏期休業期間中に2日間実施する。
対象者	全公立小学校から1名の教員(悉皆研修)、英語専科講師等(希望研修)が受講する。 (毎年約200名)
研修内容	・外部講師による講演会等を実施する。 ・前年度の中央研修参加者による伝達講習を実施する。
その他	・外部検定試験の特別受験制度についての案内を配布し、特に英語免許保有者を中心に英検・TOEIC等の資格取得を促す。 ・研修後アンケート調査を行い、次年度の研修会に生かす。

■ALT研修会（外国語指導助手の指導力等向上研修会）

目的	全ての外国語指導助手（ALT）及び日本人外国語（英語）担当教員を対象に、効果的な語学指導ができるよう、必要な知識・技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、外国語教育の充実を図る。
実施形態	11月に2日間実施する。
対象者	全てのALT（約80名）及びALTが所属する学校等の中・高英語教員（約100名）
研修内容	以下の内容に関する講演やワークショップを行う。 ① コミュニケーションに対する積極的な態度を育てたり、コミュニケーション能力を養ったりするための、効果的な指導計画や指導方法について ② 効果的なティーム・ティーチングのあり方と実践について ③ 教科書及びその他の教材の活用について ④ 我が国の小・中学校・高等学校等における外国語教育をめぐる諸問題について ⑤ 地域に根ざした国際理解教育・国際交流について ⑥ 外国語指導助手の職務上の諸問題等について ⑦ 再任用ALTの役割、職責・職務について

■英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修実習（伝達講習）

外部専門機関であるブリティッシュカウンシルと連絡調整を行い、中央研修の趣旨・内容・方法等を十分理解したうえで、各校種において、研修実習が円滑に実施されるよう配慮するとともに、研修実習受講者にとって有意義な研修となるよう、実施時期・方法等について中央研修参加者と十分に打合せを行う。

平成28年度は、主に上記「英語力養成研修会」、「英語教員研修会」、「ALT研修会」の中で実施する。29年度以降は、中央研修参加者数を踏まえたうえで、英語教員研修会の形態・内容を見直し、中央研修参加者による伝達講習を中心に実施する予定である。

■各種研修会

県高等学校教育研究会英語部会研究発表大会、県中学校教育課程研究協議会、県中学校教育課程研究大会、県小学校教育課程研究協議会、県小学校教育課程研究集会等、各種研修会において、県教育委員会として適切な指導・助言を行う。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	第1回運営指導委員会（研修協力校）	運営指導委員会における指導助言
7月	英語力養成研修会（小、2日間） 英語教員研修会（中高、3日間）	英語力養成研修会、英語教員研修会での講義・指導助言
8月		
9月	英語ディベート大会（高）	英語ディベート大会の審査・講評
10月	英語プレゼンテーションコンテスト（高）	英語プレゼンテーションコンテストの審査・講評
11月	公開授業・研究協議会（研修協力校） 外国語指導助手の指導力等向上研修会（中高、2日間）	公開授業・研究協議会における指導助言 ALT 指導力向上研修会における講義
12月		
1月		
2月	第2回運営指導委員会（研修協力校、合同）	運営指導委員会における指導助言
3月	授業DVDの作成・配布（高） 研修協力校4校による研究報告書の作成・配布（高）	
【その他の取組】 ○英語教育推進リーダーによる研修実習（小学校・中学校・高校） ○高校生とやま英語表現ハンドブック（KITOKITO TOYAMA）の活用（高校） ・国際社会の中で、将来の富山や日本を担う高校生を、真の国際人に育てるため、とやまの文化・自然・観光・産業等を英語で表現する冊子を、全高校の英語科授業や国際交流の場で活用する。		

